

企業・銀行間のスイッチングコストの計測 ——関西地域における信用金庫のデータを用いた実証分析——

中岡 孝剛

〈要 旨〉

本稿では企業・銀行間におけるスイッチングコストを計測し、銀行固有の要因とその地域における競争要因、そして経済環境との関係を実証的に分析する。これまでスイッチングコストに関する研究は、理論分析が中心であり実証的な分析は少なく、またそれはスイッチングコストの推定に関する分析であった。本稿における貢献は企業・銀行間のスイッチングコストに与える影響を分析したことであり、その主要な結果として、地域における競争圧力の上昇は、スイッチングコストを低下させることが示された。またさらに、スイッチングコストと銀行規模は逆U字型の非線形な関係が示され、スイッチングコストの観点から最適規模が示される。スイッチングコストをリレーションシップ変数にとらえるならば、これはリレーションシップバンキングを実施する上での最適規模でもある。この結果は、今後さらに進展すると考えられる信用金庫の再編に対して示唆を与えるものである。

© Japan Society of Monetary Economics 2011